様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2008～2010
課題番号：20720144
研究課題名（和文）　キャリア形成に向けた論理的英語運用能力の研究

研究課題名（英文）　Logical interaction competence in English for career development

研究代表者
根本　浩行（NEMOTO　HIROYUKI　）
金沢大学・外国語教育研究センター・准教授
研究者番号：40452099

研究成果の概要（和文）：
肯定的な文化接触が異文化学術場面に存在することが明らかになり、日本人交換留学生がその肯定的な接触を留意し適切に評価することが学術英語リテラシーおよび論理的英語運用力を向上させる要因の一つとなることが判明した。その一方で、規範からの逸脱の軽視、肯定的な文化接触の留意不足、ストラテジーの使用回避、使用したストラテジーの評価欠如などが留学先での学術英語習得を妨げる要因となりうることも明らかになった。研究成果を基に、英語運用力とともに専門性を高めキャリアへと繋がる道筋を提示すべく今後さらなる考察を重ねる。

研究成果の概要（英文）：
The findings suggested that even though Japanese exchange students at overseas universities frequently had difficulties negotiating norms, they could develop academic literacy in English by transferring their previously-developed knowledge and skills, creating new strategies, and relying upon other host community members. On the other hand, their academic management was occasionally constrained due to insufficient noting and evaluation of norm deviations and positive contact situation phenomena, avoidance and abandonment of implementing strategies, and lack of reviewing the effectiveness of their strategies. Based on the findings, this study provides important theoretical and pedagogical implications to integrate a student exchange program into career development.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総　計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：応用言語学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：言語学、英語、第二言語習得、リテラシー

１．研究開始当初の背景

現在高等教育機関におけるキャリア教育の充実が求められているが、英語教育においても社会で役立つ英語運用力を養うことが急務とされてきている。英語の活用できる日本人を育成するというのは日本の英語教育界において長年の課題であるが、これまでは「どのようにしてコミュニケーションをとるか」といった表面的な部分（表現法や表現の正確さ）を重視するあまり、ネイティブの文化に迎合する形の教育手段が主にとられてきた。だが、国際競争力が激化する中、「何を伝えるか」がより一層重視されてきている昨今、日本人としての特色を前面に出した発信型のインターアクションを習得する必要性がますます高まってきている。しかしながら、何の脈略もなしに日本の規範を持ち出したとしても交渉や主張は成立しえないものである。それゆえ、ネイティブと同等の英語使用を目指し模倣するだけではなく、物事を的確に分析し、理にかなった意見主張を述べる論理的英語運用能力を習得、実践させる教育が必要となる。この論理的能力はどのジャンルの英語使用場面においても根本的な力となるものであり、英語で論理的思考力を養うことにより、日本語リテラシーを促進する相乗効果をもたらすと考えられる。

このような談話、文章の論理性は英語圏でのリテラシー教育においてよりよく反映されている。英語圏の国々ではこのリタラシー教育の発達とともに体系的な学術英語教授法に対する関心が高まっている一方で、英語圏での学術的言語使用のみがすべてではないことも指摘されており、論理性のある書き方や話し方を追求するためにいろいろな国々の学術言語使用法を英語リテラシー教育に取り入れる試みもなされている。このように多角的な研究がなされているリテラシー教育を日本の高等教育機関における英語教育に沿うようあてはめることによって、論理的な書き方、話し方の指導法を促進することができるであろうと期待される。

本研究の調査対象となる交換留学制度は実際に学生が体系的学術英語リテラシーを現地で学ぶことを可能にする制度であり、提携大学との連携を深めることにより、そこから学術英語教育の専門知識や方法論を日本の教育現場にフィードバックすることも可能である。さらには日本と海外で一貫した学術英語プログラムを構築するための足掛かりとなりうる。現在、大学間の交換留学制度はグローバリゼーションを促進する上での代表的なプログラムとして積極的に運営されている。それに伴い、交換留学の傾向，国際的役割または学生の帰国後の学習態度の変化等がこれまで主に研究されてきたが、交換留学制度と言語習得の関連性に焦点を当てたミクロレベルでの質的研究は国際的に不十分である。また、職業上の英語使用場面がどのようなものであるか、それに対応した英語運用力とは何かといった日本社会における英語インターアクションの役割に関する調査も詳細には行われておらず、教育の現場へ反映されるには至っていない。このような研究動向の中で本研究は今まで詳細に解明されなかった学術英語リテラシーに起因

する論理的思考力の習得法そして社会で求められる英語運用力への適用法を明らかにすることで、体系的な英語教育プログラムの枠組みを作り上げることをねらいとする。論理的思考力を身につけることにより物事の道理に沿って自己主張をすることの重要性を認識させ、良識を持った新社会人の育成に努めたいという考えが着想に至った経緯である。

２．研究の目的

(1) 留学先で求められる英語学術課題とその対処法。日本人交換留学生が留学先で課題に取り組む上で遭遇する問題、その問題を留意し評価する方法、調整計画の立案過程、そして選択された調整ストラテジーの種類。またそのストラテジーは効果的であるかどうかを明らかにし、一年間の留学期間を通しどのように学術能力を発達させていくかを綿密に調査する。
(2) 留学先で行われている非英語母語話者に対する学術英語サポートシステムの方針と現状。またそれを日本での学術英語教育にどのように取り入れるべきかを提示する。
(3) 交換留学経験者が社会に出てどの程度英語を活用し活躍しているか、また企業側は留学経験者に何を期待しているかを量的質的データをもとに検証する。
(4) 上記の研究結果をもとに学術英語を通して論理的英語運用力を養成し、大学での英語から実社会で活用できる英語力へと橋渡しをするブリッジングコースや四年一貫の体系的学術英語強化プログラムの構想を練る。
(5) 体系的プログラムの一環として交換留学準備プログラムの強化、また帰国後キャリアに生かすための論理的英語能力強化プログラムを確立するための土台作りをする。
(6) 送り出し大学(金沢大学)と海外の受け入れ大学による学術英語能力を促進するための相互支援システムのありかたを提示する。

３．研究の方法

第二言語習得を対象とする研究においては、これまでの言語プロダクトを基にした分析よりも言語活動のプロセスを考察するという意識が近年強まっている。アンケート調査を用いた量的なデータをもとに全体像を浮かび上がらせ、インタビュー、言語使用場面の観察、ダイアリースタディを用いてプロセスに焦点を当てた質的検証を行い、実際の言語使用場面で起こりうる具体的現象を奥深く把握分析した。以上の収集方法によりさまざまな種類の量的質的データを集め多角的データ分析(data triangulation)を行った。

４．研究成果

肯定的な文化接触が異文化学術場面に存在することが明らかになり、日本人交換留学生がその肯定的な接触を留意し適切に評価することが学術英語リテラシーおよび論理的英語運用力を向上させる要因の一つとなることが判明した。その一方で、規範からの逸脱の軽視、肯定的な文化接触の留意不足、ストラテジーの使用回避、使用したストラテジーの評価欠如などが留学先での学術英語習得が妨げる要因となりうることが明らかになった。

情報提供者となる学生たちの帰国後、就職後の追跡調査を継続して行い、英語運用力のみならず専門性を高めキャリアへと繋がる道筋を、派遣留学を中心に組織化すべく今後考察を重ねる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計４件）

① Nemoto, H. “Negotiation of academic participation by NESB students at an Australian university”, 35th Applied Linguistics Association of Australia Congress, 2010.7.6, the University of Queensland, Brisbane, (Australia)
② Nemoto, H, “Discontinuation of Language Management in Academic Contact Situations”, 1st Combined Conference of the Applied Linguistics Associations of NZ and of Australia, 2009.12.2, Auckland University of Technology (New Zealand)
③ Nemoto, H. “Noting and evaluating the degrees of contactness between Japanese and Australian academic cultures”, Presented at Language Management Workshop: Probing the Concept of ‘Noting’, 2008.8.22, Monash University (Australia)
④ Nemoto, H. “Language-in-education planning of a student exchange program”, Presented at Applied Linguistics Association of Australia Conference, 2008.7.5, the University of Sydney, (Australia)

〔図書〕（計３件）
① Nemoto, H. *The Management of Intercultural Academic Interaction: Student Exchanges Japanese and Australian Universities*, Cambridge Scholars Publishing, 2011 年, 1-185 頁
② Nemoto, H. “Negotiation of norms in academic contact situations”, *Language Management in Contact Situations,* J. Nakvapil and T. Sherman 編, Frankfurt: Peter Lang. 2009 年, 225-244 頁
③ Nemoto, H. “Language-in-education planning of student exchanges between Japanese and Australian universities”, *Studies in Applied Linguistics and Language Learning*, A. Mahboob and C. Lipovsky 編, Cambridge Scholars Publishing, 2009 年, 158-175 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
根本　浩行　（NEMOTO HIROYUKI）
金沢大学・外国語教育研究センター・准教授
研究者番号：40452099

(2)研究分担者
該当なし

(3)連携研究者
該当なし